

船橋市の産業のSWOT分析

【強 み(Strength)】 (全 体)	【弱 み(Weakness)】 (全 体)
①人口が増加している(マーケットが拡大)	①少子高齢化が一部地域で進行(松が丘、大穴、高根・金杉など)
②大消費地である関東圏に立地している	②昼間人口が少ない(昼間人口比率:船橋市84%、同規模市99%)
③鉄道・高速道路等のアクセス利便性が高い	③道路の慢性的な交通渋滞
④産官学連携が可能な大学が近隣にある(日本大学、東邦大学、千葉工業大学)	④船橋市ならではの核となる産業がない
⑤豊富な地域の農水産物(梨、小松菜、ニンジン、スズキ、コノシロ、海苔養殖など)	⑤臨海部の液状化・津波災害のリスクの高まり
⑥認知度が高い(市外住民の約7割が訪問経験あり)	
(商 業)	(商 業)
①年間商品販売額が県内2位の水準となっている	①事業所数・従業者数・年間商品販売額が減少
②大型小売店の集客力が高い	②大規模店の店舗面積が減少(平成28年536㎡→令和3年508㎡)
③まちづくり活動に積極的な商店街が多い	③市民の消費需要の7%程度が市外に流出している
④山口横丁や仲通りなどの横丁文化がある	④商店街数が減少(商店街の二極化が進行)
⑤NPO(158団体、県内1位)など地域人材が豊富	⑤商店街活動が衰退傾向(背景は店主の高齢化の進行)
⑥市民の船橋市のイメージは「商業の盛んなまち(67%)」が最多	⑥商店街のSDGsの取り組みが低調(取り組んでいる:商店街3%、個店27%)
⑦市民の商業環境に対する満足度(71%)が高い	⑦商店街の高齢社会への対応が不十分(取り組んでいる23%)
⑧市民の商店街利用頻度が向上(週1回以上利用:2014年16%→2024年21%)	⑧商店街の外国人来街客へに対応が不十分(取り組んでいない79%)
⑨市民の商店街のまちづくり活動に対する期待が高い(求める40%、求めない16%)	⑨個店のデジタル・トランス・フォーメーション(DX)の取り組みが不十分(取り組んでいる21%)
⑩個店のキャッシュレス決済が進展(導入済み(予定あり):2020年42%→2024年57%)	⑩雇用不足感が強い(雇用環境DI:小売業▲47, 飲食店▲55)
⑪個店の設備投資意欲が旺盛(過去3年間の設備投資実績あり:小売業・飲食店ともに5割程度)	⑪個店のBCPの策定が不十分(策定意向あり23%)
	⑫個店の働き方改革への対応が不十分(取り組んでいる:小売業44%、飲食店12%)
	⑬市民の3分の2程度は商店街を利用していない
(工 業)	(工 業)
①製造品出荷額等が県内4位の高水準かつ増加傾向(インフレの影響もあり)	①事業所数・従業者数が減少
②製造業の業種別構成比が高い(船橋市23%、千葉県13%)	②住工混在地域(山手、海神等)への人口流入による操業環境の悪化
③多様性のある産業構造(京葉食品コンビナートから中小製造業まで多種多用な製造業が立地)	③工業用地が不足している
④景気に左右されにくい食品製造業が多い(従業員構成比:48%)	④海外展開の取り組みが低調(取り組んでいる:2~14%)
⑤新たに生み出した付加価値が大きい(1事業所あたり11億円)	⑤SDGsの取り組みが低調(取り組んでいる:31)
⑥投資意欲が旺盛(投資総額:平成24年96億円→令和3年213億円)	⑥デジタル・トランス・フォーメーション(DX)の取り組みが不十分(取り組んでいる24%)
⑦中小製造業の高い技術力(加工賃収入:県内2位)	⑦BCPの策定が不十分(策定意向あり37%)
⑧働き方改革への対応が進展(取り組んでいる:2020年30%→2024年50%)	⑧雇用不足感が強い(雇用環境DI:▲61)
⑨ベンチャープラザ船橋による企業支援	
(観 光)	(観 光)
①アンデルセン公園の高い集客力(トリップアドバイザー:日本のテーマパークランキング全国21位)	①観光資源(寺社仏閣、景勝地など)が乏しい
②梨農家が北部地域に集中している	②地域特産品やご当地グルメの知名度・ブランド力が低い
③南船橋駅周辺地域の再開発に伴うまちの魅力の向上	③市内の観光関連事業者の連携が弱い
④プロスポーツチームがある(千葉ジェッツふなばし、クボタスピアーズ船橋・東京ベイ)	
⑤市外住民が船橋市を訪れた際の満足度(51%)が高い	
⑥市外住民の船橋市の再訪意向(62%)が高い	
⑦市外住民の市内の施設・イベント等の経験度が上昇(船橋競馬場、中山競馬場、アンデルセン公園など)	
【機 会(Opportunity)】	【脅 威(Threat)】
①日本経済が成長局面にある(2024年のGDPは既往最高)	①国内の人口減少・高齢化が進行
②SDGs(脱炭素)の推進機運の高まり	②円安や地政学的リスクなどを映じたインフレのマイナス影響
③デジタル・トランス・フォーメーション(DX)の推進機運の高まり	③大規模災害の発生リスクの高まり(台風・豪雨の大型化や首都直下型地震の発生など)
④成田空港の機能強化と高速道路網の整備進展	④消費者ニーズの多様化・複雑化
⑤インバウンドがコロナ禍の収束に伴い既往最高水準で推移	⑤地域間競争の激化(定住促進、企業誘致等)